

平面上に平行四辺形 $OACB$ があり、この平面上の点 P に対し \vec{OP} を

$$\vec{OP} = s\vec{OA} + t\vec{OB}$$

の形に表す。

- (1) s, t が関係 $5s + 2t = 3$ を満たしながら変わるとき、 P はある定直線上を動く。その直線と 2 辺 OA, BC との交点をそれぞれ A', B' とするとき、

$$\vec{OA'} = \frac{\boxed{\text{ア}}}{\boxed{\text{イ}}} \vec{OA}, \quad \vec{OB'} = \vec{OB} + \frac{\boxed{\text{ウ}}}{\boxed{\text{エ}}} \vec{OA}$$

である。

- (2) P が平行四辺形 $OACB$ の周上または内部にあつて、 $5s + 2t \leq 3$ を満たして動く

とき、 P が動く領域の面積は、平行四辺形の面積の $\frac{\boxed{\text{オ}}}{\boxed{\text{カ}}}$ 倍である。

- (3) 線分 $A'B'$ 上の点 P を通り 2 辺 OA, OB のそれぞれに平行な 2 直線を l, m とする。 l, m, OA, OB で定まる平行四辺形の面積を S とする。点 P が線分 $A'B'$ 上を動くとき、 S が最大になるのは、

$$\vec{OP} = \frac{\boxed{\text{キ}}}{\boxed{\text{クケ}}} \vec{OA} + \frac{\boxed{\text{コ}}}{\boxed{\text{サ}}} \vec{OB}$$

となるときである。

(86 共通 1 次数 II 4)

【答】	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	クケ	コ	サ
	3	5	1	5	2	5	3	10	3	4

【解答】

- (1) $\vec{OP} = a\vec{OA} + t\vec{OB}$, $5s + 2t = 3$

A' は直線 OA 上の点であるから、 $t = 0$ である。

$$5s + 2 \times 0 = 3 \quad \therefore s = \frac{3}{5}$$

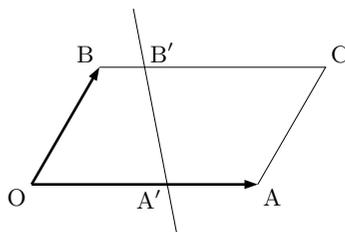
$$\therefore \vec{OA'} = \frac{\boxed{3}}{\boxed{5}} \vec{OA} \quad \dots\dots (\text{ア, イの答})$$

B' は直線 BC 上の点であるから、 $t = 1$ である。

$$5s + 2 \times 1 = 3 \quad \therefore s = \frac{1}{5}$$

$$\therefore \vec{OB'} = \frac{\boxed{1}}{\boxed{5}} \vec{OA} + \vec{OB} \quad \dots\dots (\text{ウ, エの答})$$

である。



- (2) P が平行四辺形 OACB の周上または内部にあって、 $5s + 2t \leq 3$ を満たして動くとき、P が動く領域は、「平行四辺形 OACB の周上または内部」と「直線 A'B' 上または直線 A'B' に関して O と同じ側」の共通部分、すなわち、台形 BOA'B' の周上および内部である。

B から直線 OA に下した垂線の長さを h とおくと

$$\begin{aligned} (\text{台形 BOA'B' の面積}) &= \frac{1}{2}(BB' + OA')h = \frac{1}{2} \left(\frac{3}{5}OA + \frac{1}{5}OA \right) h \\ &= \frac{2}{5}OA \times h \\ &= \frac{2}{5}(\text{平行四辺形 OACB の面積}) \end{aligned}$$

よって、P が動く領域の面積は、平行四辺形の面積の

$$\frac{\boxed{2}}{\boxed{5}} \text{ 倍}$$

…… (オ, カの答)

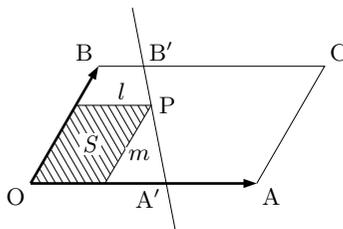
である。

- (3) S は右図の斜線部分の面積である。

$$S = |s\vec{OA}| |t\vec{OB}| \sin \angle AOB$$

P は線分 A'B' 上を動くから

$$\begin{cases} 5s + 2t = 3 \\ 0 < t < 1 \\ \frac{1}{5} < s < \frac{3}{5} \end{cases} \quad \dots\dots \textcircled{1}$$



を満たす。

$$\begin{aligned} S &= st|\vec{OA}||\vec{OB}| \sin \angle AOB \\ &= st \times (\text{四面体 OACB の面積}) \end{aligned}$$

四面体 OACB の面積は一定であるから、条件 ① のもとで積 st が最大となる s, t を求める。 s, t は正の数であるから、相加平均・相乗平均の関係を用いると

$$\begin{aligned} \frac{5s + 2t}{2} &\geq \sqrt{5s \cdot 2t} \\ \therefore \left(\frac{3}{2}\right)^2 &\geq 10st \\ \therefore st &\leq \frac{9}{40} \end{aligned}$$

等号が成り立つのは、 $5s = 2t$ のときであり、 $5s + 2t = 3$ とあわせると

$$5s = 2t = \frac{3}{2} \quad \therefore s = \frac{3}{10}, \quad t = \frac{3}{4}$$

これは①を満たす。したがって、 st の最大値は $\frac{9}{40}$ である。

以上より、 S が最大となるのは

$$\vec{OP} = \frac{\boxed{3}}{\boxed{10}} \vec{OA} + \frac{\boxed{3}}{\boxed{4}} \vec{OB}$$

…… (キ~サの答)

のときである。

- 1文字消去の解法もある.

$$st = s \cdot \frac{3-5s}{2} = -\frac{5}{2}s^2 + \frac{3}{2}s = -\frac{5}{2}\left(s - \frac{3}{10}\right)^2 + \frac{9}{40}$$

st は $s = \frac{3}{10}$ のとき, 最大値 $\frac{9}{40}$ をとる. このとき $t = \frac{3-5 \cdot \frac{3}{10}}{2} = \frac{3}{4}$ であり,
 s, t は条件 ① を満たす.